



# アフリカ健康構想セミナー アフリカにおける 保健課題の解決に向けて



Africa Health and Wellbeing Initiative Seminar  
~ Toward Solving Health Challenges in Africa ~

日時

2023年 3月2日(木)、3月3日(金)

日本時間 18:00 ~ \* 進行は英語で行われます。

オンライン開催

日英仏の同時通訳あり

日本政府はアフリカ健康構想 (AfHWIN) の下、アフリカ各国と協力しながら保健課題解決に向け取り組んでいます。

その活動の一環として、今回は保健医療の基礎となる母子の健康、水、衛生、栄養等に関する課題に着目し、その課題解決に向けたソリューションについて日本企業から発表いただきます。アフリカで直面している課題に対する日本への期待や提案等を伺い、相互の理解とネットワークを深めることで今後の連携強化の機会となれば幸いです。

## ファシリテーター

3月2日(木)

一般社団法人 徳洲会 アフリカ代表 顧問 |  
ムワナタンブエ ミランガ

3月3日(金)

東京大学大学院医学系研究科 国際地域保健学教室 教授 |  
神馬 征峰

## 企業発表

※各企業の発表日は変更になる場合があります

3月2日(木)

ヤマハ発動機株式会社  
三菱ケミカルアクア・ソリューションズ株式会社

3月3日(金)

ハクゾウメディカル株式会社  
株式会社ユカシカド  
株式会社 T-ICU

## 総括

3月2日(木)・3月3日(金)

東京女子医科大学 国際環境・熱帯医学講座 客員教授 |

杉下 智彦

## アドバイザー

熊本大学 ヒトレトロウイルス学共同研究センター 熊本大学キャンパス長 教授 |

大阪公立大学大学院 医学研究科 基礎医科学専攻 ウイルス学 / 寄生虫学分野 教授 |

広島大学大学院 医系科学研究科 国際保健看護学 教授 |

東京女子医科大学 国際環境・熱帯医学講座 客員教授 |

医療法人光心会 理事長・諏訪の杜病院 院長 |

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 国際医療協力局 国際医療協力局付課長 |

上野 貴将

城戸 康年

新福 洋子

杉下 智彦

武居 光雄

野田 信一郎

申込

セミナーへの聴講参加をご希望の方は以下のサイトからお申し込み願います。

<https://forms.gle/tKQjpPX3MbZdsN8G6>





## ヤマハ発動機株式会社



ヤマハ発動機株式会社は、二輪車や四輪バギー、電動アシスト自転車などのランドモビリティ事業、ボート、船外機等のマリン事業、サーフェスマウンターやドローンなどのロボティクス事業など多軸に事業を展開、世界30ヶ国・地域のグループ140社を通じた開発・生産・販売活動を行い、企業目的である「感動創造企業」の実現に取り組んでいる。2000年代から村落向け浄水装置の開発、2010年から販売を開始。アフリカ・アジアを中心に48基の設置実績を持っている。

## 三菱ケミカルアクア・ソリューションズ株式会社



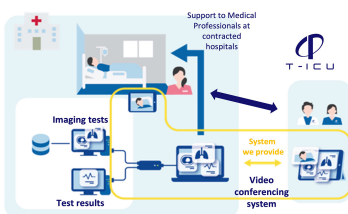
三菱ケミカルアクア・ソリューションズ株式会社は、地下水や河川水等の多様な水源より、様々な水処理技術を活用して、衛生的な飲料水を提供している。また、透析用純水等の高度医療用水を製造する技術を有しており、災害時の断水対策として病院等のBCP対策にも貢献。近年では、ケニア、タンザニア等の地域での安全な水供給等の環境配慮型ソリューションの取り組みも積極的に推進しており、UNDPやJICAとの協業も高い評価を受けている。

## 株式会社ユカシカド



株式会社ユカシカドは、「国内外を問わず平等な環境と機会の創造に全力を尽くし、努力できる才能を持っている人が強くなる世界をつくる。」というMISSIONを掲げ、生きる上でのベースとなる栄養を正しく理解し適切に摂取できる環境づくりを志すスタートアップ企業である。尿から栄養状態を評価する検査サービス、その検査結果に基づきパーソナライズされた食品等をワンストップで提供する栄養改善事業を展開している。

## 株式会社 T-ICU



株式会社 T-ICU は、「世界中の人々に、最高の医療を」をミッションに、高い技術・専門性を基に、その場にいる患者にとって必要な医療を遠隔の技術を用いて届けることで、世界のどこにいる人々にも最高の医療を届けていきたいと考えている。主な事業として、遠隔での集中治療・救急医療に関連するサービスおよびシステムの提供、集中治療・救急医療に関するスタッフトレーニング、病院におけるコンサルテーションを展開している。

## ハクゾウメディカル株式会社



ハクゾウメディカル株式会社は、70年にわたり、安全で安心な商品を医療・介護の現場に提供すべく取り組んできており、現在、ASEAN諸国や東アジア諸国、またオーストラリアやアメリカ、中東、そしていくつかのアフリカの国々へ展開している。営業・開発・製造が連携し、“あったらいいのに”という現場の声を、商品へフィードバックできるシステムこそが、医療・介護現場で信頼され、製品を使い続けられている所以だと考えている。今回のイベントにおいても、アフリカ各国の現場の声を聴き、それを反映した展開をしていきたい。